

製造現場 デジタル化 推進人材 育成講座

段階的なカリキュラムで、
現場改善に役立つノウハウを習得！



大手プラントエンジニアリング会社において設計、現場管理、資材調達に従事し、同社海外プロジェクトでのプラント立上げ支援、工程管理など幅広い分野で多大な成果を上げています。その後、㈱アステックコンサルティングに入社。温厚で誠実な人柄と広い視野、豊富な現場経験で培われた深い知識と実践的なコンサルティングにより様々な業界のクライアントから高い評価を得ています。

株式会社アステックコンサルティング
コンサルティング本部 コンサルタント 谷野 博 氏

開催趣旨

近年、DX化・デジタル化に取り組む企業は増加傾向にありますが、思うように進まない事例も多くあります。品川区では製造現場のデジタル化について推進可能な人材を育成する講座を開講します。わかりやすく、実務に役立つカリキュラムとなっております。ぜひご参加ください。

受講対象者

品川区内の中小製造業、中小情報通信業

(主な対象者)

社内でDXに取り組むことを推進したい方 例：経営層、生産技術担当者、総務部門等

受講料 無料

受講者定員

20名程度

※1社から複数名のお申込も可能です。

締切

2023年9月11日(月)

※先着順

申し込み方法 下記からお申込みください。

<https://shinagawa-dx-digital.com/human-resource/>

主催：品川区 企画運営：株式会社キャンパスクリエイト(電気通信大学TLO)



講座全体のポイント

- ・本講座受講にあたり、IT／DXに関する予備知識は不要です。
- ・前半では、製造工程で用いる紙情報をデジタル化することや、生産改善に役立つ簡易的なITツールの活用方法を学ぶところから始め、後半では、将来的な業務改革も視野に入れたカリキュラムとなっています。



講座全体を受講して得られるスキル／受講後のゴール

スキル

- なぜDXに取り組むべきか、社内の他のスタッフへ必要性が説明できるよう、DXに関する基礎知識を学びます。
- 自社工場の実情に合わせたデジタル技術の活用方法等、他社事例やツールデモ体験等を通じて習得します。
- 業務システムや生産システムの改善方法について習得します。

受講後のゴール

- 知識とノウハウをもとに社内のDXを効果的に推進できるようになることがゴールです。



講座の指針(参考)

本講座では、下記のモデル図を基本に講義を組み立てています。「なぜDXに取り組むのか」の目的を考えつつ、無理なく段階的にDXへ取り組めるよう、知識とノウハウを習得していきます。

製造業のDXは5段階に分かれる

DXへの取組は積み上げ型のため、出来るところから段階的に進めていく必要があります。

レベル	対 象	内 容	アクション
レベル5	海外工場・他社を含む サプライチェーン全体	他社とのデータ連携等	システム基盤の共通化等
レベル4	業務フロー全体、 ビジネスモデル	基幹システムの見直し、 抜本改革等	ビジネスワークフローの 再設計等
レベル3	各業務フローの見直し	各種システムの見直し、 合理化等	業務フロー改善、 スケジューラー運用等
レベル2	単独設備、作業、 チーム単位の業務、管理業務	データの集約、自動取得、 活用等	各種ICTツールの活用等
レベル1	全ての作業や行動	データのデジタル化の 推進等	各種帳票の電子化、 工数データのデジタル化等

※出典：株式会社アステックコンサルティング「第1回 『DXの目的と本質』」を要約

DEX Tokyoの見学

シーメンス株式会社の協力により、DEX Tokyoの見学会を講座内で行います。「リアルとデジタルの融合を体感する」ことができます。

DEX Tokyo 参考URL: <http://www.siemens.com/jp/dex>



カリキュラム一覧

中小製造業のDX 基本編

1 中小製造業のDXに向けた取り組み方法（経営者向け）

日時	2023年9月26日（火）13:30～16:30	会場	品川産業支援交流施設（SHIP） （品川区北品川5-5-15 大崎プライトコア 4階）
研修のポイント・実施内容	DXは企業にも大きな構造変革を求め、社内の意思決定方法、情報伝達方法及び生産方法を大きく変えていく事によって企業としてのコスト構造を変革していく取組です。目先の効果ではなく経営視点での投資対効果を見極め、DX導入の目的を明確にすることがその後の効果の発現に大きな影響を与えることになります。本章で経営者の方がDXの全体像と目的を理解することで、今後自社に適したDX推進体制を整備することに役立ちます。		
学べること	・DXとその目的 ・製造業DXの5段階レベル ・DX化を進める上での注意点と導入事例		

2 中小製造業のDXに向けた取り組み方法（従業員向け）

日時	2023年10月11日（水）13:30～15:30	会場	品川産業支援交流施設（SHIP） （品川区北品川5-5-15 大崎プライトコア 4階）
	15:30～17:00	DEX Tokyo見学（希望者）	*15:30～ 見学希望者は DEX東京（大崎駅そば）に移動いたします。
研修のポイント・実施内容	DXは社内の構造改革を通じて、より低コストな業務フロー構築を目指す取り組みで、デジタル技術を活用することで変革を加速することが出来ます。製造業のDXの実施段階は5つのレベルに分かれますが、基本的に各レベルは積み上げ型であるため、急に上位レベルは実現できません。本章でDX担当者がレベル別にどのようにDX推進に取り組むべきか理解することで、社内のDXを効果的に推進することに役立ちます。		
学べること	・DXとその目的 ・製造業DXの5段階レベル ・DXレベル別取組方法		

3 間接部門のDX化

日時	2023年10月27日（金）13:30～16:30	オンライン	Zoomミーティング
研修のポイント・実施内容	製造業DXを進める上では直接部門だけでなく生産に直接携わらない総務・経理など間接部門のDX化も非常に重要です。間接部門のDXレベル1、2は出来ている職場は多いですが、業務フローの改善であるレベル3、4まで出来ている職場はそう多くはありません。本章では、より少ない人員で業務を行うための業務フロー改善および間接部門のDX化の手順について解説いたします。		
学べること	・業務フローの考え方 ・業務フロー効率化の進め方 ・効率化する上でのポイント		

生産計画のDX化編

4 生産管理機能のDX化

日時	2023年11月15日（水）13:30～16:30	オンライン	Zoomミーティング
研修のポイント・実施内容	生産管理機能のDX化を行うには、まずは自社の生産の仕組みのあるべき姿を描くことが大切です。そして自社の正しい生産能力を把握し、月次計画・週次計画・日程計画などの生産計画体系を整備することで、精度の高い生産計画を立案することが必要です。また、生産計画立案に生産スケジューラを活用することで様々なメリットを享受することができます。本章では、生産管理機能のDX化の進め方について解説いたします。		
学べること	・生産計画の作り方と現場への指示の出し方 ・生産計画運用のポイント ・生産スケジューラ導入のポイント		

受講対象者	1回目／2回目のいずれか、及び3回目～8回目の全てを受講いただく方を対象とします。 （経営層の方は1回目、従業員の方は2回目を受講いただくことをお勧めいたします。受講者とは別に、1回目／2回目のいずれかのみ参加を希望する社内の方がいる場合は、申込状況に応じて参加可能となりますので、申し込み時にその旨ご記載ください。）
DEX Tokyo見学	第2回、第6回に実施。希望者を対象に、各回10名まで参加可能です。申込時に参加希望をお知らせください。先着順です。

5 現場作業のDX化

日時	2023年11月29日（水）13:30～16:30	オンライン	Zoomミーティング
研修のポイント・実施内容	製造業の現場作業のDX化は、デジタル技術を活用して生産プロセスを改善し、作業効率や品質を向上させる取り組みです。センサー技術やIoTデバイスを使用して、製造ラインや設備、作業者からデータを収集し、リアルタイムで監視します。この時、取得するデータが膨大にならないように、目的に応じて取得するデータを取捨選択することが重要です。本章では、現場作業を見える化し、データを取得・活用する取り組みについて解説します。		
学べること	・データ取得のポイント ・データの分析と活用方法 ・現場の作業データを取得するDXツール		

6 品質管理を例としたツール活用方法および実演

日時	2023年12月8日（金）13:30～15:30	会場	品川産業支援交流施設（SHIP） （品川区北品川5-5-15 大崎プライトコア 4階）
	15:30～17:00	DEX Tokyo見学（希望者）	*15:30～ 見学希望者は DEX東京（大崎駅そば）に移動いたします。
研修のポイント・実施内容	DXツールを活用し、品質に関連するデータの収集・分析を行うことで問題の早期発見が可能となります。例えば、電子帳票などを用いてリアルタイムに取得した実績データの分析・改善を行なうことで不良削減等の効果を早期に出すことができます。本章では、品質管理へのDXツール活用方法と、各種DXツールの運用・連携方法についてデモンストレーションを行いながら解説いたします。		
学べること	・現場実績データを収集するDXツール（電子帳票等）の体験		

基幹システムの基本構造と活用編

7 基幹システムの基本構造

日時	2023年12月20日（水）13:30～16:30	オンライン	Zoomミーティング
研修のポイント・実施内容	製造業において基幹システムを導入している企業は増えている一方、システムを使いこなせていない企業が多いというのが実態です。自社の目指す姿を明確にし、それに向けて現場とシステムの両方を修正して行くという取り組みが必要です。本章では、基幹システムの基本構造とシステム構築の進め方について解説いたします。		
学べること	・基幹システムの基本構造 ・基幹システム構築のポイント		

8 基幹システムの活用

日時	2024年1月19日（金）13:30～16:30	会場	品川産業支援交流施設（SHIP） （品川区北品川5-5-15 大崎プライトコア 4階）
研修のポイント・実施内容	基幹システムは様々なサブシステムやツールと連携することで、さらに活用の幅を広げることが出来ます。電子帳票を用いて営業からの受注データや現場作業の実績入力を電子化することで、データを基幹システムで管理できるようになります。本章では基幹システムの活用方法を解説し、基幹システムの活用をサポートする各種DXツールのデモンストレーションを体験していただきます。		
学べること	・基幹システムの活用方法 ・基幹システムと連携するDXツール（電子帳票等）の体験		